





## 指文字

手話は友だち

野澤久美子 著より

秋田には、南部方面からあるいは越後方面からと、伝播・定着した民謡が豊かに残っている。それらが又、新たな曲調をもつて秋田の唄っこを誕生させてきた。ふるさとのおい、人々の思いをたっぷり歌い込んでいる秋田民謡――「ひでこ節」、「荷方節」、「新保広大寺」や「はいや・おけさ」の仲間っこ達、各地の「盆踊唄」などが古くから歌い継がれ、多くの人々が愛唱している。

身近なところで、民謡の普及や定着に尽力した人々、例えば田中誠月や永井錦水、藤原鎮雄といった人々にも光をあててみた。江戸時代の紀行家、菅江真澄が記した五城目という地域の盆踊唄の姿にもせまることで秋田の唄っこもみててくる。

「秋田民謡研究の父」と尊称される小玉曉村。彼の情熱あふれる研究から秋田の唄っここの深さや秋田どつなりを深めた民謡・民俗の研究家も顔をのぞかせる。本田安次、町田嘉章や武田忠一郎等々……。

そんな秋田民謡の広がりや面白さをエピソードもまじえてつづってみた。

秋田の地を知つていただくための新たなページとして、ぜひご一読を!

秋田の唄っこ  
一伝えた人々、根づいた民謡

麻生正秋



定価 1,650円(税込)  
ブックスマルゴ・湯沢ビブレ等  
最寄りの書店でお求め下さい。  
TEL 0182-42-2130

## あつちこつち川柳

仮壇でほほ笑む夫に願い事

森敗退世界レベルに届かず

チヨコまでは私試食とくれた妻

雪埋もれ寄せてビヨーンと枝背伸び

吹きだまり怖さと情けしみた寒

峠越え酒も薬も仲間入り

大雪と地震にゆれるコロナかな

国会を居眠りしながら聞く米寿

道端のくずれる雪に春近く

其それぞれの違う人生花万朵

冬至から暁半帖日脚伸ぶ

食べ物も本を読むも咀嚼して

大雪も春感ですね大欠伸

さよならと根雪の帰る音がする

其のうちの違う人生花万朵

冬至から暁半帖日脚伸ぶ

食べ物も本を読むも咀嚼して

大雪も春感ですね大欠伸